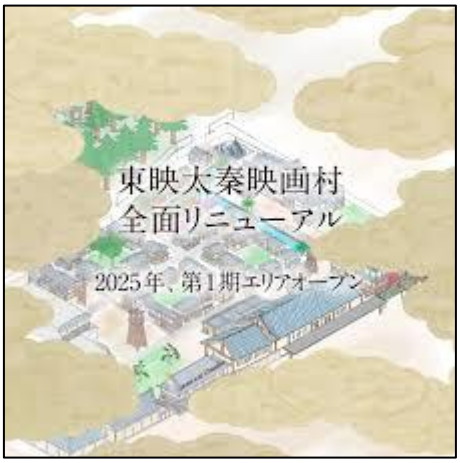
デジタル版
2026年
01月01日号
Vol. 191

成岡マネジメントオフィス事務所通信

NMO OfficeLetter

太秦映画村大規模リニューアル03/28オープン



京都市右京区太秦東映映画村の大規模リニューアル工事が2026年3月に終了し、3月28日にオープンすることになった。この全面改修は開業50周年を記念して、2024年春から進めていたもので、今後も2027年春に遊郭ゾーン、2028年春に芝居小屋ゾーンなどが順次オープンする予定だ。当初想定した投資額約120億円は、資材や人件費の高騰で大幅に超過する見通しだ。＜解説＞近年、東映太秦映画村の入場者は、ピーク時の260万人から大きく減っていた。2020年からのコロナ禍に始まり、2025年は大阪関西万博に人が流れた。夏場の猛暑の影響もあり、入場者数の予想は40万人程度と、大きく落ち込んだ。また、オーバーツーリズムの影響で、京都市内への修学旅行を敬

遠する動きも、影響を与えた。近年はレジャーも多様化し、このままの状態で営業を続けることは難しいとの結論に至った。今回の大規模改修で、飲食店をオープンセットの中に導入する。江戸時代の街並み風景は維持しつつ、有名老舗和菓子店や人気のカレーうどん店などを誘致する。10店舗が出店の予定だ。店内での飲食はもとより、食べ歩きもできるようにする。土産物などの物販店も3店舗オープンする。イベントを開催する期間に限り実施してきた夜間営業を、常時実施する。営業時間を21時までにして、アルコール類の提供や夜間のショーを

行う。夜間時間帯のみに入場できる「ナイトチケット」の導入も検討中。火曜日を定休日にする。時代劇ショーも、内容を刷新し、インバウンド外国人観光客をターゲットにした日本文化の体験メニューを新たに行う。社名も、企業名の東映を外すことにした。来場者のアンケートから、夜の満足度が高いことが知られており、現在の来場者の中心である修学旅行生や若いファミリー層から、女性にもターゲットを拡げる。当初発表していたスーパー銭湯のような温浴施設は今回間に合わない見通しだが、将来は宿泊施設があってもいいと考えていると、鎌田

社長は述べた。東映という企業にとって、太秦は故郷であり聖地のひとつ。少ない京都市内の西の観光地としての地盤を固めたいという意思の表れだ。現在アトラクションは別料金だが、入場料に含まれる形にしたいとの希望もある。大規模な投資に見合った入場者数の増加につながるか。3月のオープンが待ち遠しい。まずは修学旅行生の増加が見込めるか、従来の若いファミリー層がついてくるか、新たなターゲットとしている女性層が集客できるか。時代劇が中心のコンセプトに、どれくらい現代感覚を入れられるか。

BUSINESS MANAGEMENT&COORDINATION
株式会社成岡マネジメントオフィス
〒616-8104　京都市右京区太秦下刑部町170
プレサンスロジェ太秦天神川駅前613
TEL:075-366-6611　FAX:075-366-6100　info@nmo.ne.jp

Copyright (C) Naruoka Management Office. All rights reserved.